

コマツ 2016年度 決算説明会

2017年4月27日(木)

コマツ出席者

代表取締役社長(兼)CEO	大橋 徹二
代表取締役副社長(兼)CFO	藤塚 主夫
常務執行役員経営管理部長	稲垣 泰弘

- 1) 本年4月5日（米国東部時間）にジョイ・グローバル社（Joy Global Inc.）の買収手続きが完了しました。その後、4月19日（米国東部時間）に商号をコマツマイニング（Komatsu Mining Corp.（以下KMC））に変更しています。
- 2) このため2016年度決算数値にKMC（旧 ジョイ・グローバル社）の業績は含まれていません。
- 3) 本日の2017年度の業績見通しについては、以下の3つに区分して説明します。
 - ①コマツとKMCを合算した業績見通し
 - ②従来どおりのコマツの業績見通し
 - ③KMCの業績見通し

I. 2016年度 決算の概要 <P5-P12>

P5-7	: 2016年度の概況・セグメント売上高と利益
P8-9	: <建設機械・車両> 2016年度の状況
P10	: <リテールファイナンス> 2016年度の状況
P11	: <産機事業他> 2016年度の状況
P12	: 連結貸借対照表

II. 2017年度の業績見通し・中期経営計画の進捗の状況**KMCの業績見通し <P14-P33>**

P14-15	: 2017年度の見通し(概況・セグメント売上高・利益)
P16-17	: <建設機械・車両> 売上高とセグメント利益の見通し
P18	: <リテールファイナンス> 資産と収益の見通し
P19	: <産機事業他> 売上高とセグメント利益の見通し
P20-25	: <建設・鉱山機械> 主要7建機需要推移と見通し(全体及び地域別)
P26-27	: <建設・鉱山機械> 鉱山機械の需要・売上高の見通し
P28	: <建設・鉱山機械> 部品の売上高の見通し
P29	: 設備投資・減価償却費・研究開発費・固定費の見通し
P30-33	: 中期経営計画の進捗状況・KMCの業績見通し

参考資料 <P35-P43>

P35-38	: 四半期毎の状況
P39-40	: BBレシオ〔受注/売上指数(6ヶ月)〕
P41-43	: 2016年度第4四半期(1月-3月)の状況

I . 2016年度の決算概要

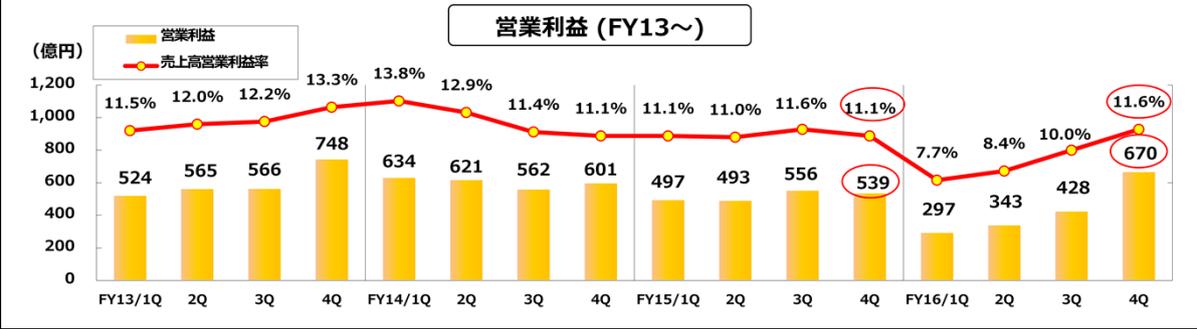
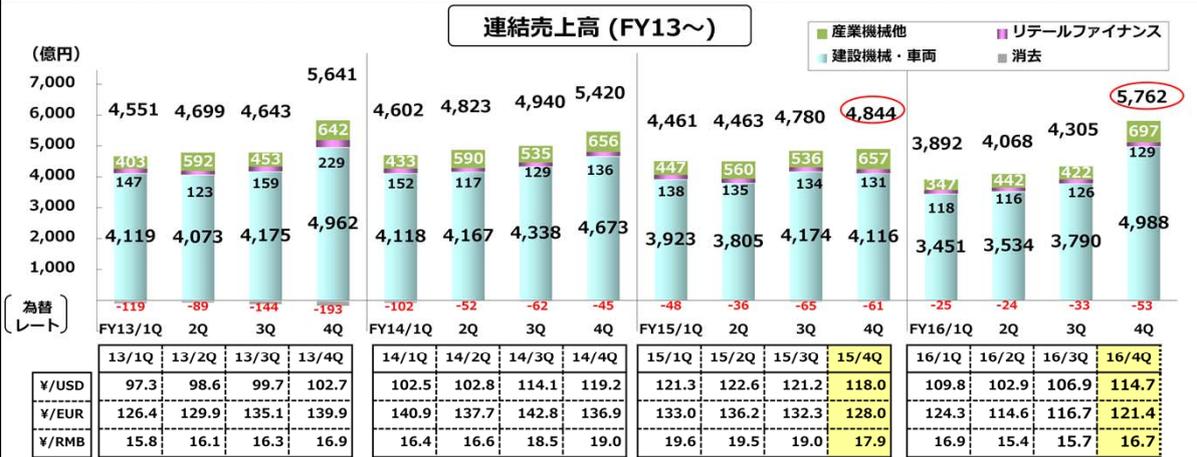
- ・ 連結売上高は前年比▲2.8%減収の1兆8,029億円。
- ・ 営業利益は前年比▲16.5%減益の1,740億円。売上高営業利益率は同▲1.5ポイント減の9.7%。
- ・ 純利益は前年比▲17.5%減益の1,133億円。

金額単位：億円	2015年度 ¥120.8/USD ¥132.4/EUR ¥19.0/RMB	2016年度見通し (期初公表値) ¥105.0/USD ¥119.0/EUR ¥16.2/RMB	2016年度 ¥108.6/USD ¥119.3/EUR ¥16.2/RMB	前年比	
				増減	増減率
連結売上高	18,549	16,850	18,029	▲519	▲2.8%
セグメント利益	2,020	1,550	1,765	▲254	▲12.6%
その他の営業収益(▲費用)	65	▲50	▲24	▲90	-
営業利益	2,085	1,500	1,740	▲344	▲16.5%
売上高営業利益率	11.2%	8.9%	9.7%	▲1.5ポイント	-
その他の収益(▲費用)	▲36	▲50	▲76	▲39	-
税引前純利益	2,048	1,450	1,664	▲384	▲18.7%
純利益*	1,374	920	1,133	▲240	▲17.5%
ROE	9.0%	6.2%	7.3%	▲1.7ポイント	-
ネットD/Eレシオ	0.23	-	0.18	▲0.05ポイント	-
1株当たり配当金(円)	58円	58円	58円	±0円	
連結配当性向	39.8%	59.4%	48.2%		

* 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する当期純利益」

- 為替レートは、1ドル:108.6円、1ユーロ:119.3円、1元:16.2円です。前年比で、円はドル、ユーロ、元に対して円高となりました。また、その他の通貨に対しても、同様に円高となりました。
- 2016年度の連結売上高は、前年比▲2.8%減収の1兆8,029億円、営業利益は▲16.5%減益の1,740億円となりました。営業利益率は▲1.5ポイント減の9.7%です。
- 売上高は、円高と産業機械他セグメントにおける物量減が影響しました。
- 純利益は▲17.5%減益の1,133億円です。
- なお、昨年4月に公表した予想値との比較としては、円高によるマイナス影響を、建設機械・車両セグメントでの物量増で補い、売上高・営業利益・純利益ともに達成することができました。

四半期毎の売上高と営業利益の推移



- ・建設機械・車両部門の売上高は、▲1.6%減収の1兆5,765億円。セグメント利益は▲4.3%減益の1,616億円。セグメント利益率も▲0.2ポイント悪化し、10.3%。
- ・リテールファイナンス部門の売上高は、▲9.0%減収の490億円。セグメント利益は▲66.6%減益の44億円。
- ・産業機械他部門の売上高は、▲13.2%減収の1,910億円。セグメント利益は▲35.7%減益の124億円。

□ : 利益率 () : 外部顧客向け売上高

金額単位：億円	2015年度	2016年度見通し (期初公表値)	2016年度	前年比	
				増減	増減率
売上高	18,549	16,850	18,029	▲519	▲2.8%
建設機械・車両	(15,875) 16,020	(14,340) 14,450	(15,663) 15,765	(▲212) ▲254	(▲1.3%)▲1.6%
リテールファイナンス	(508) 539	(400) 430	(467) 490	(▲41) ▲48	(▲8.1%)▲9.0%
産業機械他	(2,165) 2,201	(2,110) 2,120	(1,899) 1,910	(▲266) ▲291	(▲12.3%)▲13.2%
消去	▲211	▲150	▲137	+74	-
セグメント利益	□10.9% 2,020	□9.2% 1,550	□9.8% 1,765	▲254	▲12.6%
建設機械・車両	□10.5% 1,690	□8.9% 1,290	□10.3% 1,616	▲73	▲4.3%
リテールファイナンス	□24.7% 133	□25.6% 110	□9.1% 44	▲88	▲66.6%
産業機械他	□8.8% 193	□8.5% 180	□6.5% 124	▲69	▲35.7%
消去または全社	3	▲30	▲20	▲23	-

各セグメントの状況：

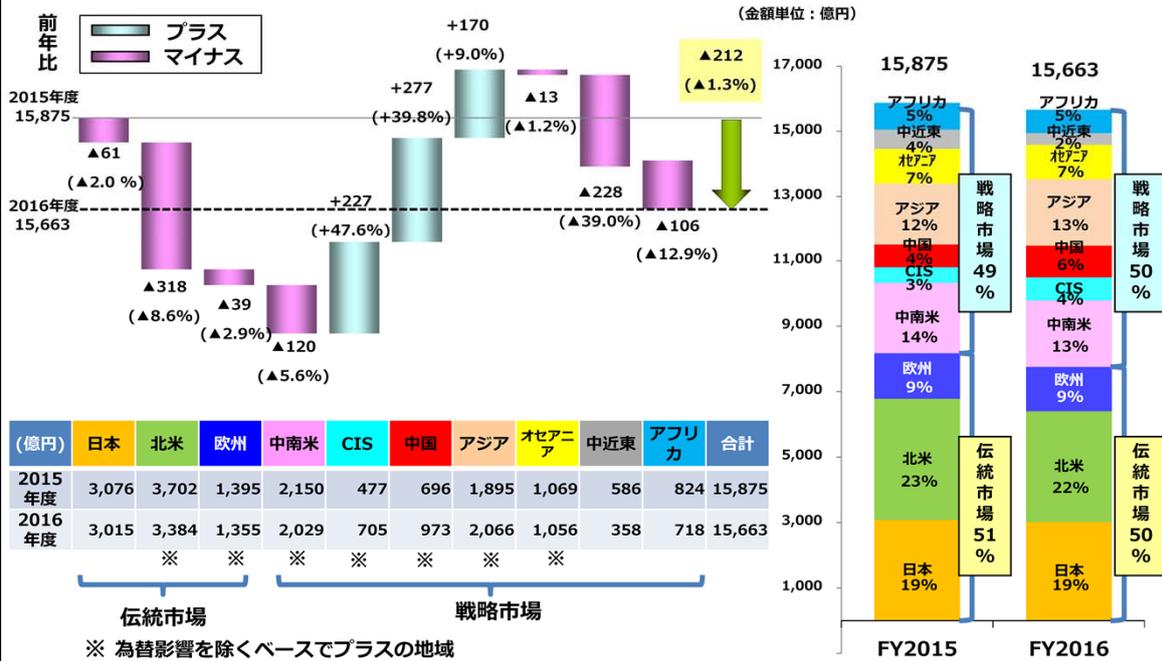
- 建設機械・車両
需要が減少している北米、中近東などでの売上減少を中国やインドネシアで挽回したものの、円高の影響を受け減収減益。なお、為替影響を除いたベースでは増収。
- リテールファイナンス【2016年度からリテールファイナンスを事業セグメントとして独立】
円高の影響と中国およびオセアニア等での資産減少の影響もあり、前年比で減収減益。
- 産業機械他
自動車業界向けの鍛圧機械および工作機械の販売減少と、旧コマツハウスの連結除外(※)の影響により、前年比で減収減益。
(※)2016年4月28日に発行済株式総数の85%に相当する株式を日成ビルド工業株式会社に譲渡完了(2016年4月28日ニュースリリース)

□建設機械・車両の売上高は、前年比▲1.6%減収の1兆5,765億円、セグメント利益は▲4.3%減益の1,616億円となりました。需要が減少している北米、中近東などでの売上減少を中国やインドネシアで挽回したものの、円高の影響を受け売上げは前年を下回りました。なお、為替影響を除いたベースでは増収となりました。

□リテールファイナンスは、円高の影響ならびに中国およびオセアニアなどの資産の減少が影響し、売上高は前年比▲9.0%減収の490億円、セグメント利益は▲66.6%減益の44億円となりました。

□産業機械他の売上高は、▲13.2%減収の1,910億円、セグメント利益は▲35.7%減益の124億円となりました。自動車業界向けの鍛圧機械および工作機械の販売減少と、旧コマツハウスの連結除外による減収が影響しました。

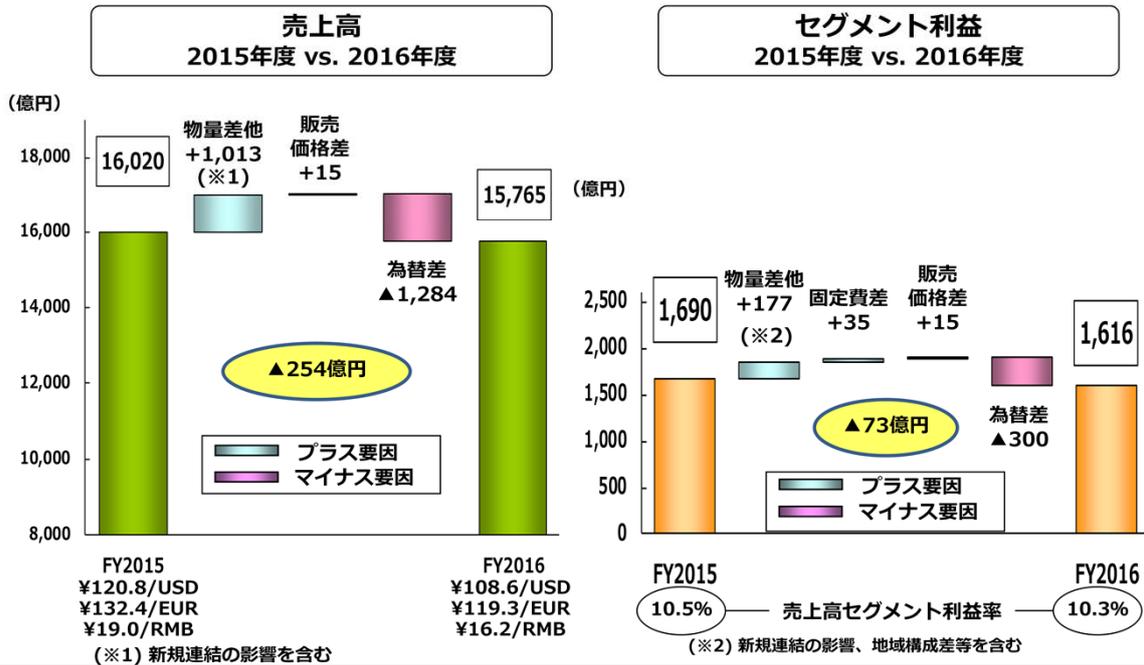
・外部顧客向け売上高は前年比▲1.3%減収の1兆5,663億円。
 ・CIS・中国・アジア除く地域で、売上高が減少。中国などの戦略市場における増加により、戦略市場の比率が50%に上昇。但し、為替影響を除くベースでは堅調な地域が多い。



□建設機械・車両の売上高は、前年比▲1.3%減収の1兆5,663億円となりました。

□円高の影響により、CIS・中国・アジアを除く地域で売上高が減少しました。中国などの戦略市場において増加し、戦略市場の比率が50%に上昇しました。

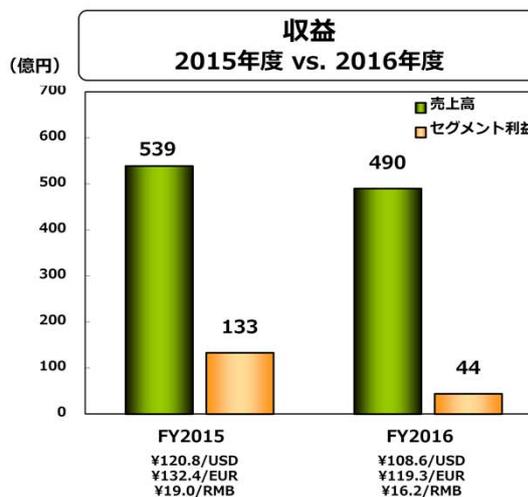
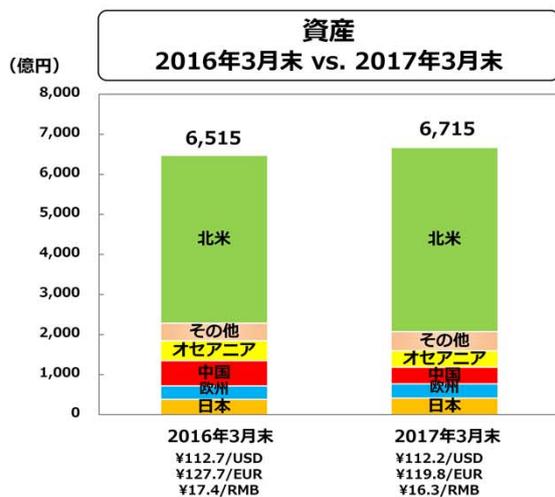
- ・円高の影響が大きく、売上高は前年比▲254億円の減収。セグメント利益も、同▲73億円の減益。
- ・売上高セグメント利益率は前年比▲0.2ポイント悪化し10.3%。



□売上高は前年比▲254億円の減収です。円高による為替差が大きく影響しましたが、物量差他はプラスとなりました。

□セグメント利益については、前年比▲73億円の減益、利益率は前年比▲0.2ポイント悪化し、10.3%となりました。固定費の削減を行ったものの、円高によるマイナスなどが影響しました。

- ・資産は北米・欧州・タイ等での債権増加により、前年度末比+200億円増加。
- ・売上は為替の影響を受け減収。利益は中国で引当金を積み増したことに伴い、前年比で減益。



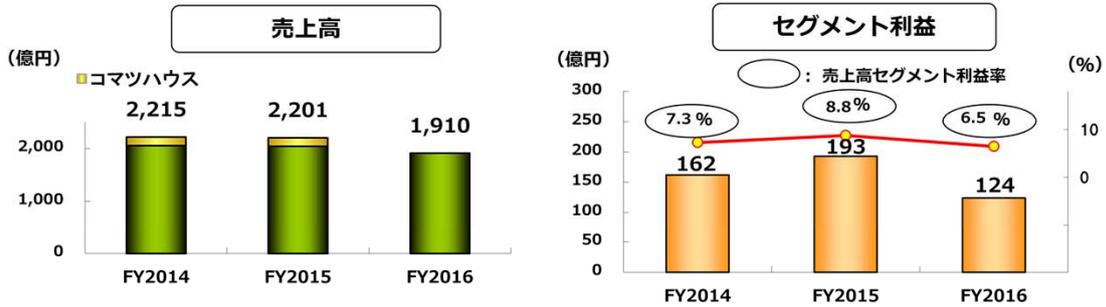
	2016/3E	2017/3E	2016/3E比
借入金	4,835	5,060	+224
ネットベースの借入金	4,766	5,012	+245
ネットD/Eレシオ	3.40	3.65	+0.25ポイント

	FY2015	FY2016	前年比
ROA	2.0%	0.7%	▲1.3%

□リテールファイナンスの総資産は、前年度末に比べ+200億円増加し、6,715億円となりました。北米・欧州・タイ等で増加しました。

□売上は為替の影響を受け減収。利益は中国で引当金を積み増したことに伴い、前年比で減益となりました。

・自動車業界向けの鍛圧機械および工作機械の販売減少と、旧コマツハウスの連結除外(※)の影響により、売上高は前年比▲13.2%減収の1,910億円、セグメント利益率は6.5%。



金額単位：億円	2014年度	2015年度	2016年度	前年比	
				増減	増減率
コマツ産機等(プレス事業合計)	640	580	566	▲14	▲2.5%
コマツNTC [うち、ワイヤーソー]	736 [78]	710 [69]	552 [107]	▲157 [+37]	▲22.2% [+53.1%]
ギガフォトン	292	340	320	▲20	▲6.0%
コマツハウス(※)	163	161	-	▲161	-
その他	382	407	470	+62	+15.4%
合計	2,215	2,201	1,910	▲291	▲13.2%

(※) 2016年4月28日に発行済株式総数の85%に相当する株式を日成ビルド工業株式会社に譲渡完了(2016年4月28日ニュースリリース)

□産業機械他部門は、自動車業界向けの鍛圧機械および工作機械の販売減少と、旧コマツハウスの連結除外による影響により、売上高は前年比▲13.2%減収の1,910億円となりました。

□セグメント利益は、売上減少の影響が響き、124億円、セグメント利益率は前年同期比で▲2.3ポイント減の6.5%となりました。

- ・ 総資産は、売上債権の増加により、前年度末比で+418億円の増加。
- ・ 株主資本比率は同+1.4ポイント増の59.4%

金額単位：億円	2016年3月末 ¥112.7/USD ¥127.7/EUR ¥17.4/RMB	2017年3月末 ¥112.2/USD ¥119.8/EUR ¥ 16.3/RMB	増減
現金・預金（含む定期預金） [a]	1,084	1,221	+137
受取手形・売掛金（含む長期売上債権）	8,753	9,332	+578
棚卸資産	5,396	5,338	▲57
有形固定資産	6,977	6,790	▲187
その他資産	3,935	3,881	▲53
資産合計	26,146	26,564	+418
支払手形・買掛金	2,054	2,401	+347
借入金・社債 [b]	4,575	4,087	▲488
その他負債	3,639	3,591	▲47
負債合計	10,268	10,079	▲189
（株主資本比率）	（58.0%）	（59.4%）	（+1.4ポイント）
株主資本	15,174	15,766	+592
非支配持分	703	718	+14
負債及び純資産合計	26,146	26,564	+418
※ ① の借入金・社債 [b-a]	3,490	2,865	▲625
※ ② /Eレシ	0.23	0.18	

□総資産は前年度末比で、+418億円増加しました。為替の影響が▲205億円あり、これを除けば、実質は+623億円の増加です。

売上の増加により受取手形・売掛金が増加しました。

棚卸資産が▲57億円となっており、為替の影響▲21億円を除いても実質▲36億円の減少となりました。

□株主資本比率は前年度末から1.4ポイント増加し59.4%となりました。

Ⅱ. 2017年度の業績見通し

次ページからの業績見通しについては、以下の3つに区分して説明します。

①コマツとKMCを合算した業績見通し

P14 : 2017年度の業績見通し(概要)

②従来どおりのコマツの業績見通し

P15 : 2017年度の各セグメント売上高と利益の見通し

P16 : <建設機械・車両> 地域別売上高の見通し (外部顧客向け)

P17 : <建設機械・車両> 売上高・セグメント利益の増減要因の見通し

P18 : <リテールファイナンス> 資産と収益の見通し

P19 : <産機事業他> 売上高とセグメント利益の見通し

P20-25 : <建設・鉱山機械> 主要7建機需要推移と見通し(全体及び地域別)

P26-27 : <建設・鉱山機械> 鉱山機械の需要・売上高の見通し

P28 : <建設・鉱山機械> 部品の売上高の見通し

P29 : 設備投資・研究開発費・固定費の見通し

P30 : 年間業績推移および中期経営計画の経営目標進捗状況

③KMCの業績見通し

P31 : KMCの業績見通しと売上推移

P32 : KMC買収に伴う一時費用について

- ・ 連結売上高は前年比+18.4%増収の2兆1,350億円の見通し。KMCの売上高は2,560億円。
- ・ 営業利益は前年比▲10.4%減益の1,560億円、売上高営業利益率は同▲2.4ポイント減の7.3%の見通し。
- ・ 純利益は前年比▲18.9%減益の920億円の見通し。

金額単位：億円	2016年度 ¥108.6/USD ¥119.3/EUR ¥16.2/RMB	2017年度 (見通し) ¥105.0/USD ¥115.0/EUR ¥15.0/RMB			前年比	
			コマツ (従来ベース)	KMC	増減	増減率
連結売上高	18,029	21,350	*1 18,800	2,560	+3,320	+18.4%
セグメント利益(▲損失)	1,765	1,640	2,030	*2 ▲390	▲125	▲7.1%
その他の営業収益(▲費用)	▲24	▲80	▲80	-	▲55	-
営業利益(▲損失)	1,740	1,560	1,950	*2 ▲390	▲180	▲10.4%
売上高営業利益率(▲損失率)	9.7%	7.3%	10.4%	▲15.2%	▲2.4ポイント	-
その他の収益(▲費用)	▲76	▲150			▲73	-
税引前純利益	1,664	1,410			▲254	▲15.3%
純利益*3	1,133	920			▲213	▲18.9%
ROE	7.3%	5.9%			▲1.4ポイント	
1株当たり配当金(円)	58円	58円			±0円	
連結配当性向	48.2%	59.5%				

*1 コマツからKMCへの内部売上高(10億円)を含む。

*2 KMCのセグメント損失および営業損失には右記の一時費用の影響が含まれている。

(P32:【参考資料】KMC(旧ジョイ・グローバル社)買収に伴う一時費用についてに内容を記載)

*3 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する当期純利益」

※ PPAはPurchase Price Allocation
(バーチェス・プライス・アロケーション)の略
資産・負債を公正価値評価/配分する手続き

PPAによる償却費増加額(暫定値)	▲390億円
スタートアップ費用ほか	▲90億円
合計	▲480億円

□為替レート的前提は、1ドル:105円、1ユーロ:115円、1元:15.0円と致します。

□2017年度の業績見通しは、連結売上高が前年比+18.4%増収の2兆1,350億円、営業利益が▲10.4%減益の1,560億円、売上高営業利益率は▲2.4ポイント減の7.3%、純利益は920億円の見通しです。

□営業利益のところを見ますと、従来ベースのコマツは営業利益率が10.4%です。

□ROEは前年比▲1.4ポイント低下の5.9%になる見通しです。

2017年度の各セグメント売上高と利益の見通し

・建設機械・車両は増収増益、リテールファイナンスは減収増益、産業機械他は増収増益の見通し。

□: 利益率 () : 外部顧客向け売上高

金額単位：億円	2016年度		2017年度 (見通し)		前年比	
					増減	増減率
売上高	18,029		18,800		+770	+4.3%
建設機械・車両	(15,663)	15,765	(16,360)	16,460	(+696)	+694 (+4.4%) +4.4%
リテールファイナンス	(467)	490	(450)	480	(▲17)	▲10 (▲3.7%) ▲2.2%
産業機械他	(1,899)	1,910	(1,990)	2,000	(+90)	+89 (+4.8%) +4.7%
消去		▲137		▲140	▲2	-
セグメント利益	□ 9.8%	1,765	□ 10.8%	2,030	+264	+15.0%
建設機械・車両	□ 10.3%	1,616	□ 10.8%	1,780	+163	+10.1%
リテールファイナンス	□ 9.1%	44	□ 21.9%	105	+60	+135.8%
産業機械他	□ 6.5%	124	□ 8.3%	165	+40	+32.4%
消去または全社		▲20		▲20	+0	-

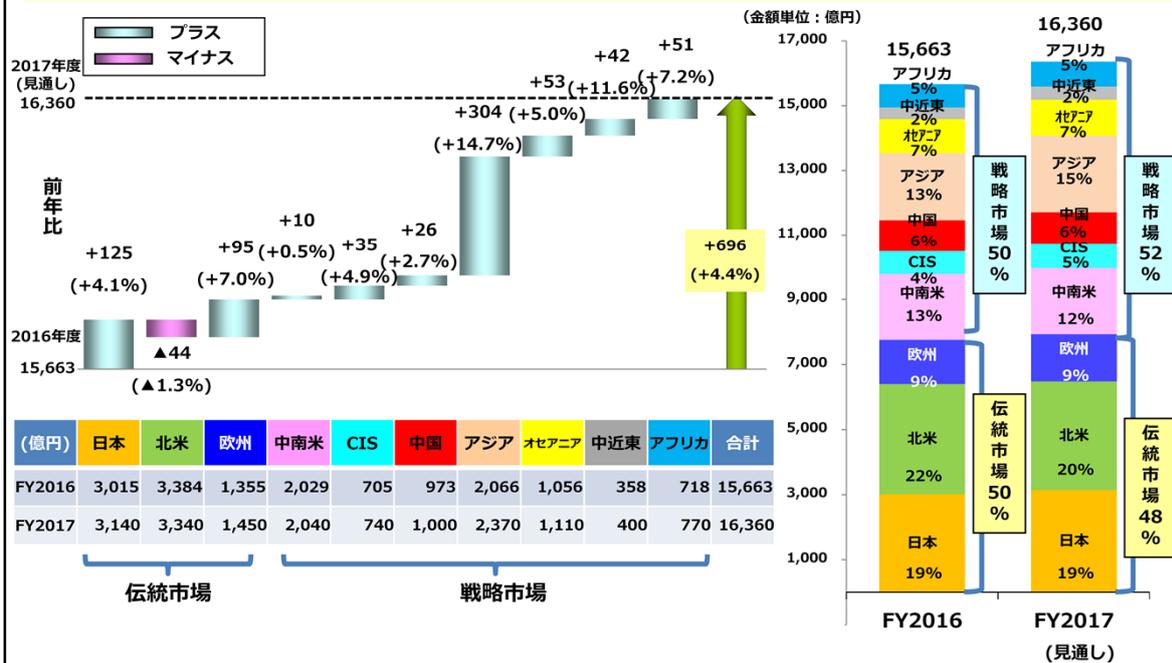
各セグメントの状況：

- 建設機械・車両
円高の影響もあるが、需要回復が見込まれる中で収益の拡大を図っていく。アジアや鉱山機械の売上増加に伴い増収増益となる見通し。
- リテールファイナンス
資産は増加するものの、為替の影響を受け減収。一方、利益面は、前年度に計上した中国での債権に係る引当金の影響が無くなることから増益となる見通し。
- 産業機械他
コマツNTCやコマツ産機での売上増加に伴い、全体で増収増益となる見通し。

- 2017年度の建設機械・車両は、アジアや鉱山機械の売上増加に伴い、増収増益となる見通しです。
- リテールファイナンスは、為替の影響を受けで減収となりますが、中国での引当金の影響が無くなることにより増益の見通しです。
- 産業機械他は、コマツNTCやコマツ産機での売上増加に伴い、前年比増収増益の見通しです。

<建設機械・車両> 2017年度の地域別売上高の見通し (外部顧客向け)

- ・ 2017年度の外部顧客向け売上高は、北米を除く全ての地域でプラスとなり、前年比+4.4%増収の1兆6,360億円の見通し。為替の影響を除くとすべての地域でプラス。
- ・ 戦略市場比率は52%に拡大の見通し。



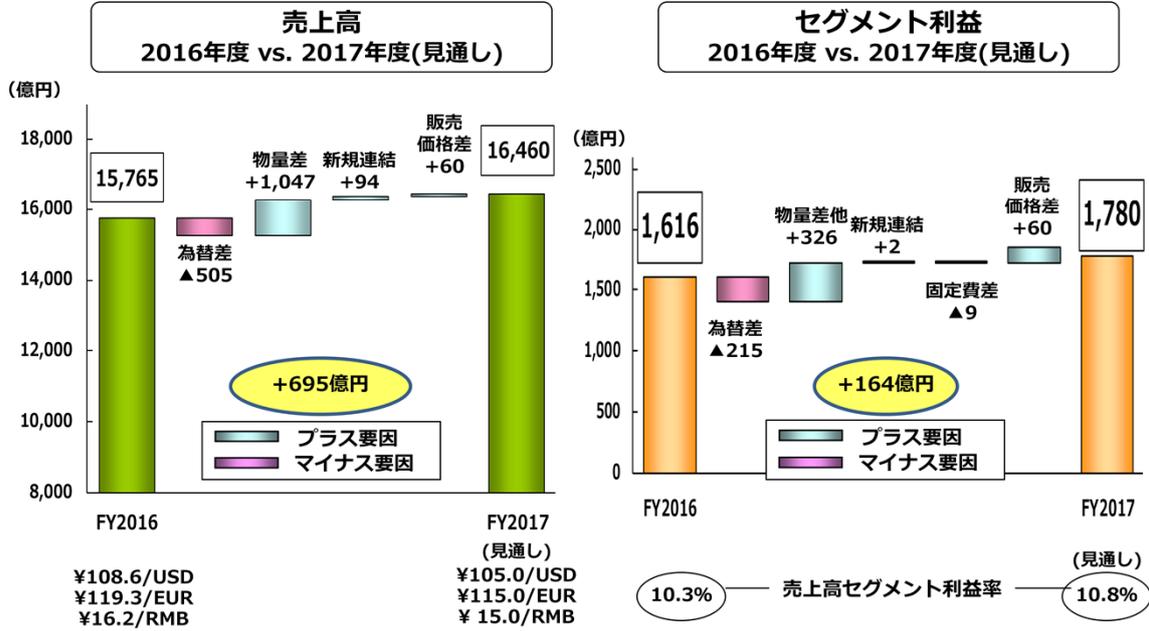
□2017年度は、北米を除く全ての地域でプラスとなり、前年比+4.4%増収の1兆6,360億円の見通しです。

□為替影響を除いた物量ベースでは全ての地域でプラスになる見通しです。

□戦略市場の比率は、前年度の50%から52%に拡大する見通しです。

＜建設機械・車両＞ 売上高・セグメント利益の増減要因の見通し

- ・売上高は前年比+695億円の増収、セグメント利益も+164億円増益の見通し。
- ・売上高セグメント利益率は前年比+0.6ポイント増の10.8%の見通し。

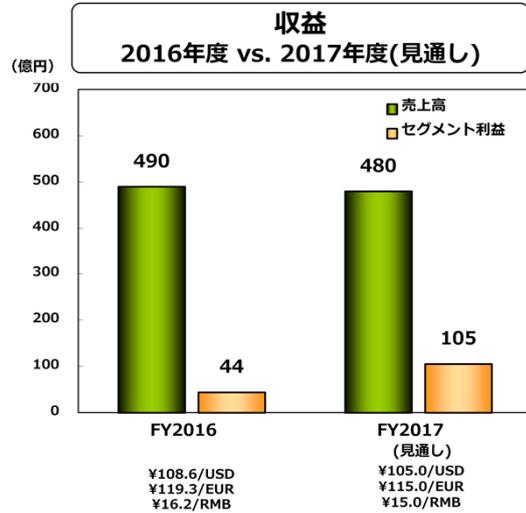
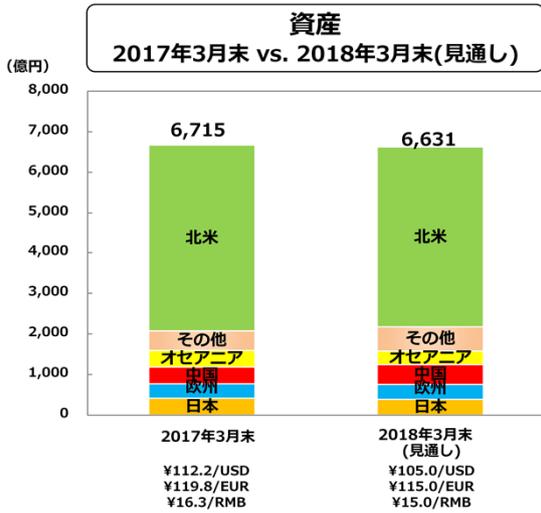


□売上高は前年比+695億円の増収の見通しです。

□セグメント利益については、前年比+164億円の増益の見通しです。

<リテールファイナンス> 資産と収益の見通し

- ・資産は主に北米等でファイナンス契約の増加により増えるが、為替の影響により前年度末比で減少の見通し。
- ・収益は中国で2016年度に積み増した引当金の影響がなくなるにより増益の見通し。



金額単位：億円	2017/3E	2018/3E(見通し)	2017/3E比
借入金	5,060	5,068	+8
ネットベースの借入金	5,012	5,034	+22
ネットD/Eレシオ	3.65	3.69	+0.04ポイント

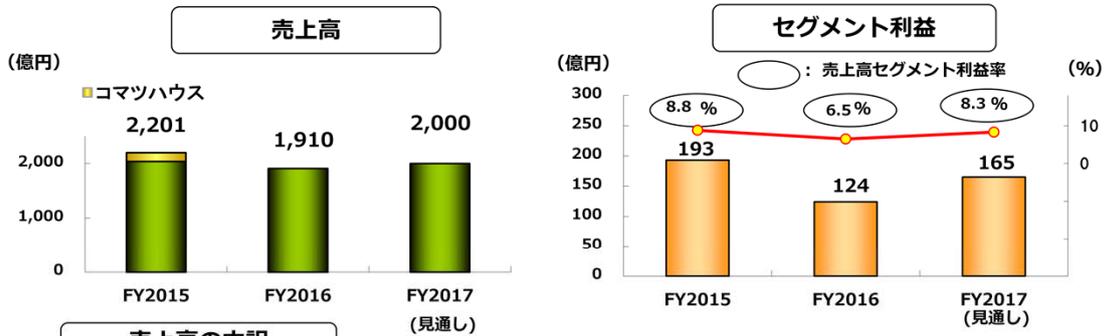
	FY2016	FY2017(見通し)	前年比
ROA	0.7%	1.6%	+1.0%

□リテールファイナンスの資産は、主に北米等でファイナンス契約の増加により増えますが、為替の影響により前年度末比で減少の見通しです。

□収益については、中国で2016年度に積み増した引当金の影響がなくなるにより増益の見通しです。

<産業機械他> 売上高とセグメント利益の見通し

・売上高は前年比+4.7%増収の2,000億円、セグメント利益は前年比+40億円増益の165億円の見通し。



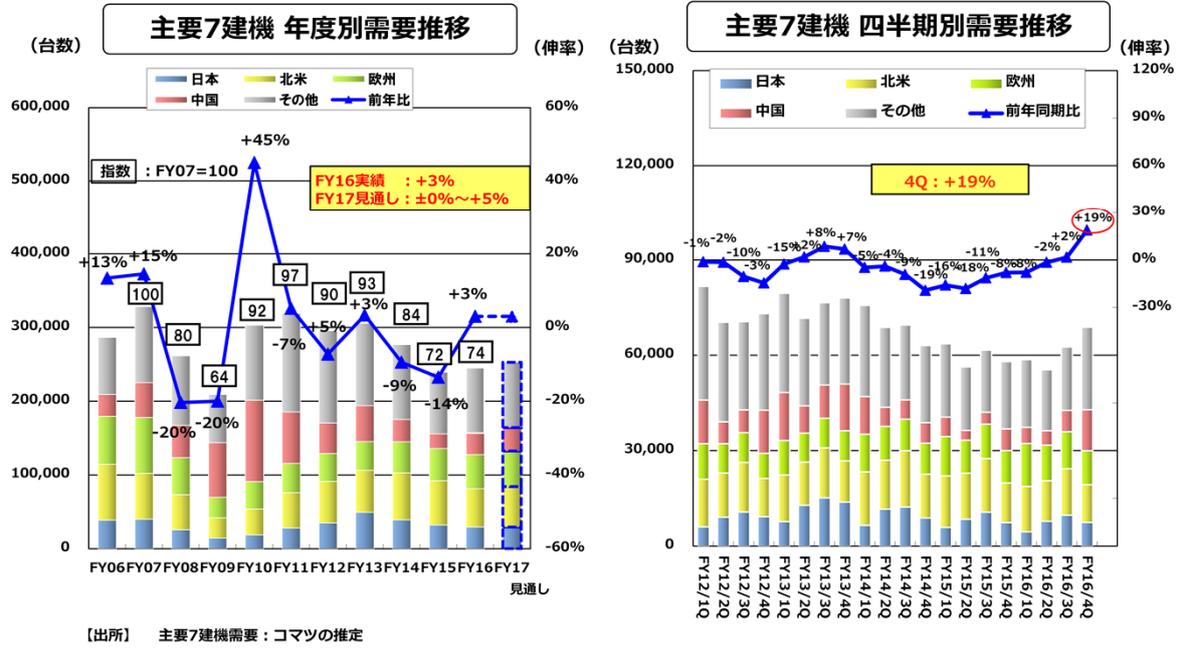
金額単位：億円	2015年度	2016年度	2017年度 (見通し)	前年比	
				増減	増減率
コマツ産機等(プレス事業合計)	580	566	590	+23	+4.1%
コマツNTC [うち、ワイヤーソー]	710 [69]	552 [107]	721 [106]	+169 [▲1]	+30.7% [▲0.9%]
ギガフォトン	340	320	361	+41	+12.8%
コマツハウス(※)	161	-	-	-	-
その他	407	470	328	▲144	▲30.5%
合計	2,201	1,910	2,000	+89	+4.7%

(※) 2016年4月28日に発行済株式総数の85%に相当する株式を日成ビルド工業株式会社に譲渡完了(2016年4月28日ニュースリリース)

□産業機械他部門では、売上高は前年比+4.7%増収の2,000億円、セグメント利益は前年比+40億円増益の165億円の見通しです。

<建設・鉱山機械> 主要7建機需要推移と見通し

- ・2016年度は、北米、中近東などで需要が減少したものの、中国やインドネシアなどで上向き、前年比+3%。
- ・2017年度は、上期を中心に引き続き中国やインドネシアで伸びが期待できるが、全体としては前年比±0%~+5%の見通し。



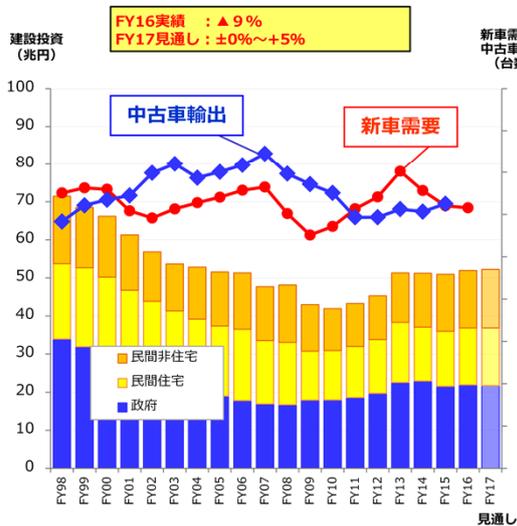
□2016年度の世界需要は、北米、中近東などで需要が減少したものの、中国やインドネシアなどで上向き、全体としては前年比+3%の増加となった模様です。

□2017年度は上期を中心に引き続き中国やインドネシアで伸びが期待できますが、年間を通した需要は±0%~+5%と見ております。

<建設・鉱山機械> 主要市場の需要推移と見通し：①日本

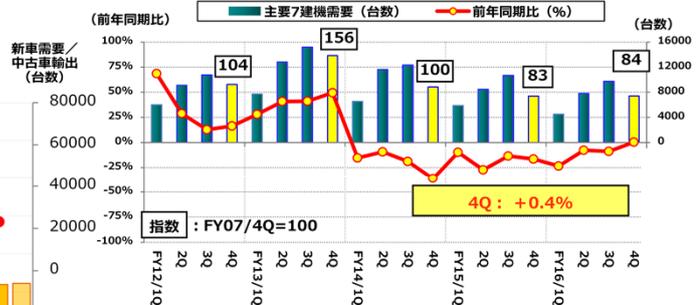
- ・2016年度の需要は、前年比▲9%。
レンタル向けを中心に、新排出ガス規制関連の需要が一巡した影響が継続。
- ・2017年度の上期は国内排ガス規制前の駆け込みにより増加。下期は反動減。
年間の需要は前年比±0%～+5%の見通し。

新車需要（主要7建機）と建設投資

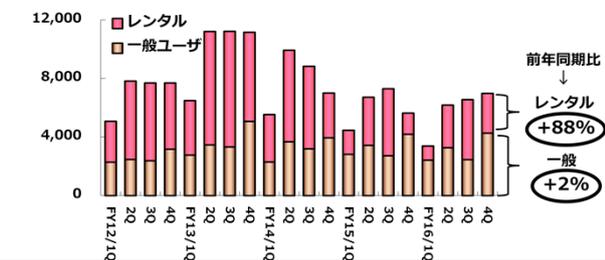


【出所】建設投資：国土交通省／建設経済研究所
主要7建機需要：コマツの推定
中古車輸出量：コマツの推定

主要7建機 四半期別需要推移



油圧ショベル 需要推移(レンタル/一般向け)



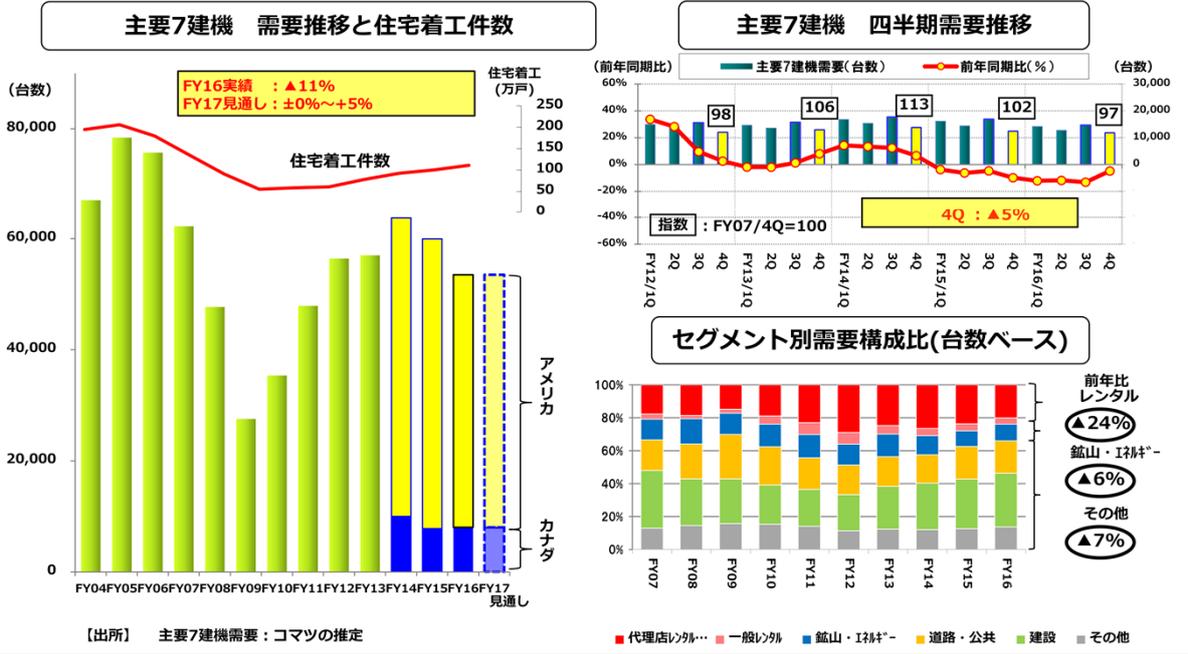
□2016年度の日本の需要台数は、前年比▲9%減少になりました。

□レンタル向けを中心に、新排出ガス規制関連の需要が一巡した影響が続いています。

□2017年度の上期は国内排ガス規制前の駆け込みがあると考えられますが、下期は反動で減少し、年間の需要は前年比±0%～+5%と見ております。

<建設・鉱山機械> 主要市場の需要推移と見通し：②北米

- ・2016年度の需要は、前年比▲11%。
アメリカにおいて、一般ユーザ向けの需要は引き続き堅調に推移したものの、レンタル向けは低迷。
カナダはエネルギー分野向けを中心に低迷していたが、回復基調。
- ・2017年度については、アメリカにおいて下期以降にインフラ投資が増加すると考えられ、全体の需要は前年比±0%～+5%の見通し。



□2016年度の北米の需要は、前年比で▲11%減少しました。

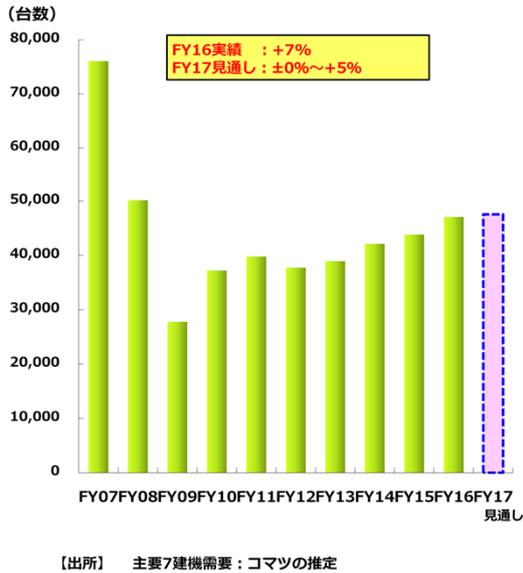
□アメリカでは、一般ユーザ向けの需要は引き続き堅調に推移したものの、レンタル向けが低迷しました。

□カナダはエネルギー分野向けを中心に低迷していましたが、回復基調が見られました。

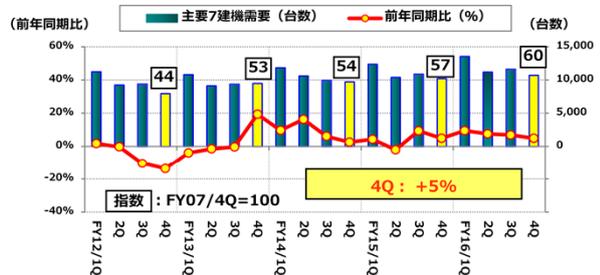
□2017年度については、アメリカにおいて下期以降にインフラ投資が増加すると考えられ、全体の需要は前年比±0%～+5%になると見えています。

- ・ 2016年度の需要は、前年比+7%。
主要市場のドイツに加え、北欧・南欧が堅調に推移。
- ・ 2017年度は引き続き堅調と見ており、需要は前年比±0%~+5%の見通し。

主要7建機 年度別需要推移



主要7建機 四半期需要推移



主要7建機(6ヶ国除く)地域別需要



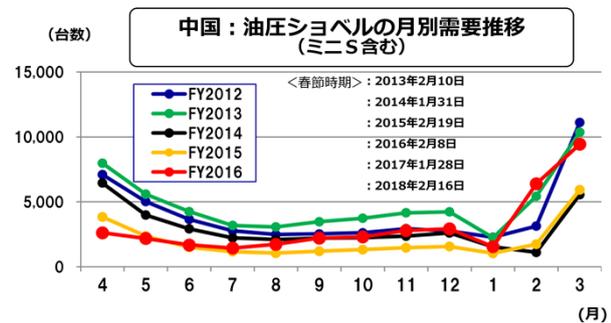
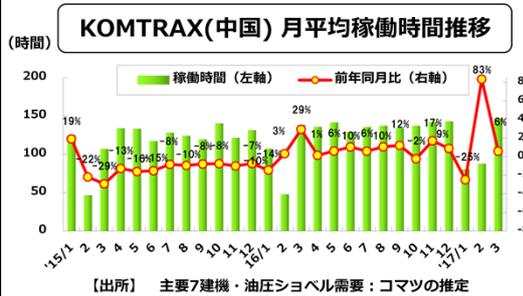
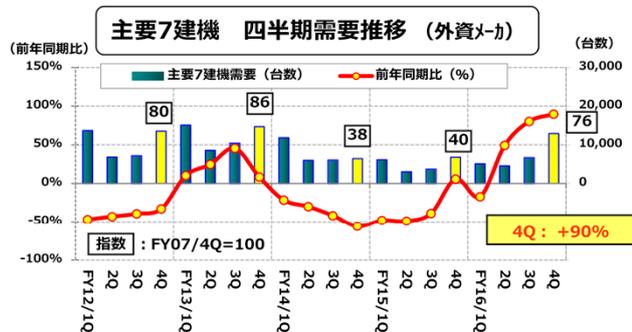
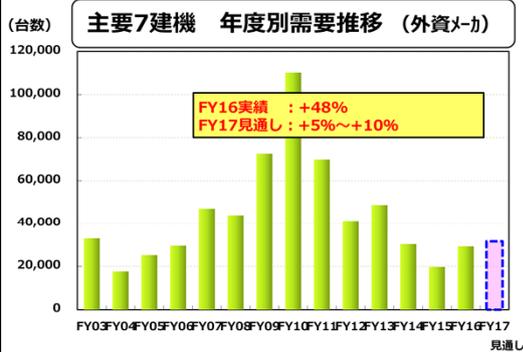
□2016年度の欧州の需要は、前年比+7%増加となった模様です。

□ドイツを中心に主要市場が堅調であり、他の北欧や南欧についても回復基調が継続しました。

□2017年度は、主要国での選挙やBrexitの影響、金融システムの状況など不安要素はあるものの、引き続き堅調と見ており、全体としては前年比±0%~+5%の需要と見ております。

<建設・鉱山機械> 主要市場の需要推移と見通し：④ 中国

- ・2016年度の需要は、下期に伸びたこともあり前年比+48%。全国的にインフラ工事が進行し、一般建機の需要が伸長。
- ・2017年度についても、秋ごろまでは堅調に推移すると見ているが、下期は伸び率が鈍化し、需要は前年比+5%~+10%の見通し。



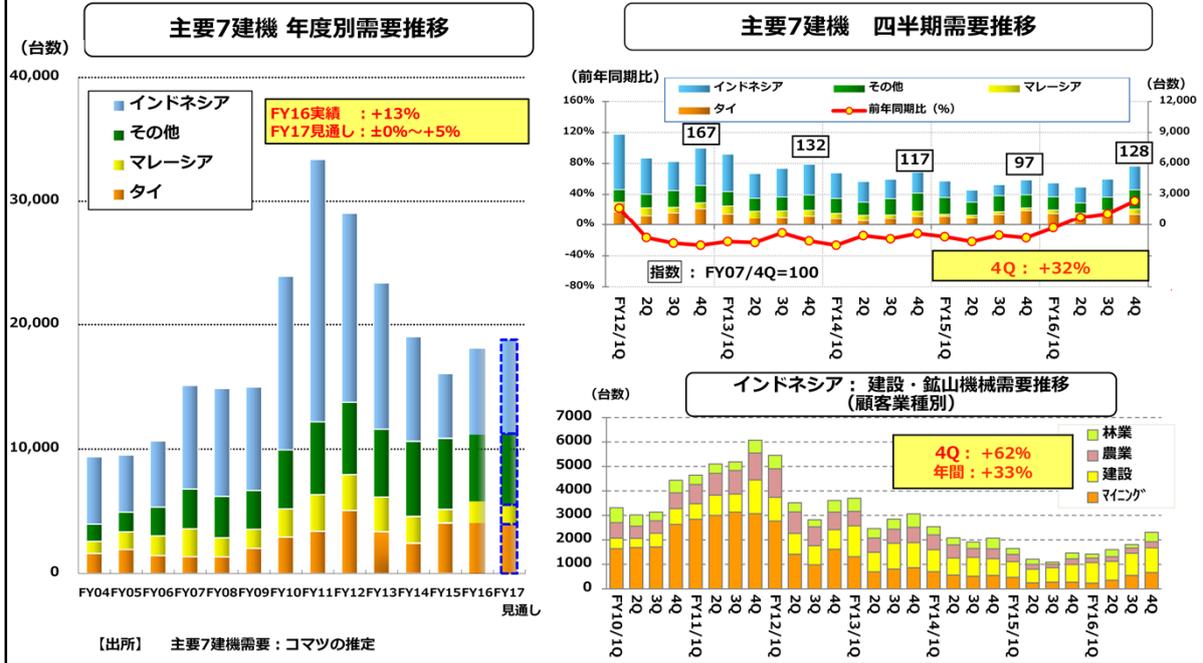
□2016年度の中国の需要は、下期に伸びたこともあり前年比+48%の増加となりました。

全国的にインフラ工事が進行したことにより一般建機の需要が伸長しました。

□2017年度についても、秋ごろまでは堅調に推移すると見ているが、下期は伸び率が鈍化し、需要は前年比+5%~+10%と見ております。

＜建設・鉱山機械＞ 主要市場の需要推移と見通し：⑤ 東南アジア

- ・ 2016年度の需要は下期に伸びたこともあり、前年比+13%。
最大市場のインドネシアで需要が伸長したことに加え、マレーシアも同様に伸長。
- ・ 2017年度はインドネシアで引き続き需要が伸びる見通しだが、下期以降、伸び率は鈍化して、全体として需要は前年比±0%～+5%の見通し。



□ 2016年度の東南アジアの需要は下期に伸びたこともあり、前年比+13%増加となりました。

□ 最大市場のインドネシアで需要が伸長したことに加え、マレーシアも同様に伸長しました。

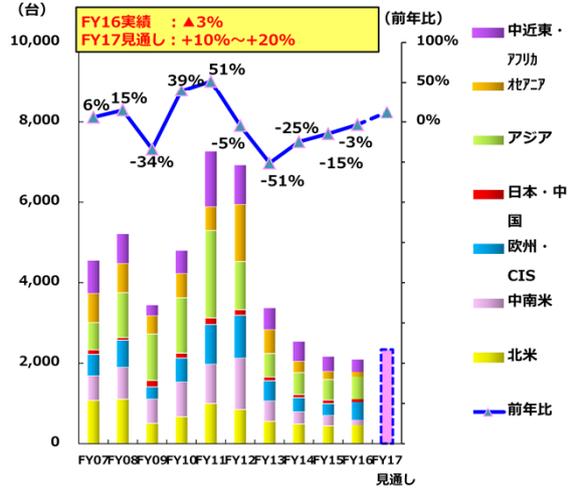
□ 2017年度はインドネシアで引き続き需要が伸びる見通しですが、下期以降、伸び率は鈍化して、全体として需要は前年比±0%～+5%の見通しです。

<建設・鉱山機械> 鉱山機械の需要推移と見通し

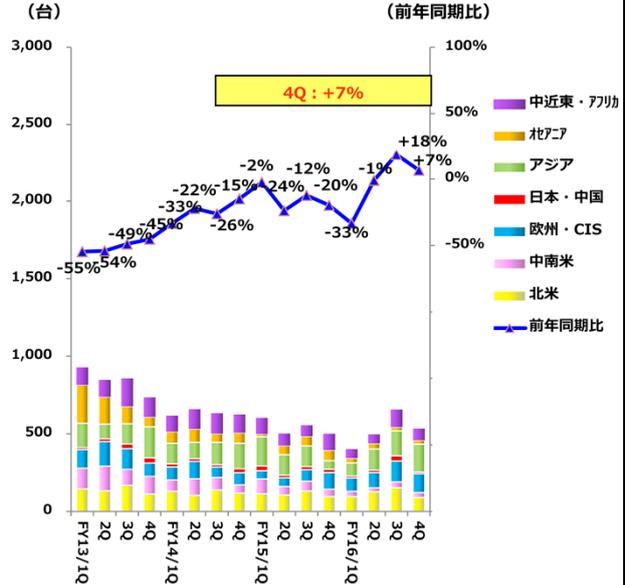
- ・ 2016年度の鉱山機械の世界需要は、前年比▲3%。
- ・ 2017年度はインドネシアなどでの需要の増加により前年比+10%~+20%の見通し。

鉱山機械 年度別需要推移

・ ダンプトラック：75 t (HD785) 以上 ・ フロントローダー：525HP (D375) 以上
 ・ エクスカベータ：200 t (PC2000) 以上 ・ ホイールローダー：810HP (WA800) 以上
 ・ モーターレータ：280HP (GD825) 以上



鉱山機械 四半期別需要推移



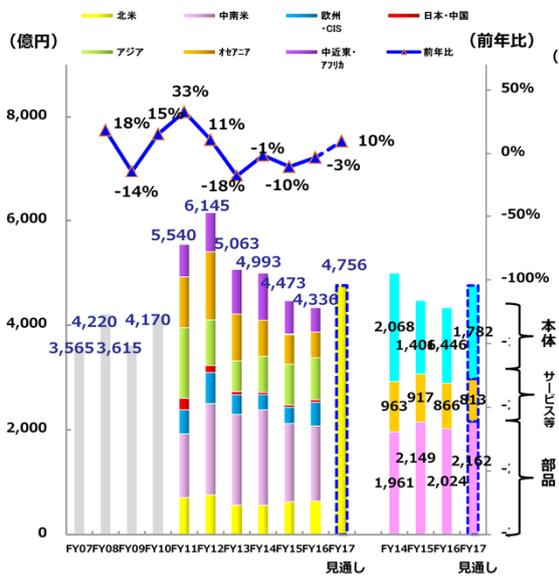
□2016年度の鉱山機械の需要は前年比▲3%減となった模様です。

□2017年度も引き続きインドネシアなどで需要の増加が見込まれ、伸び率は+10%~+20%程度になると予想しています。

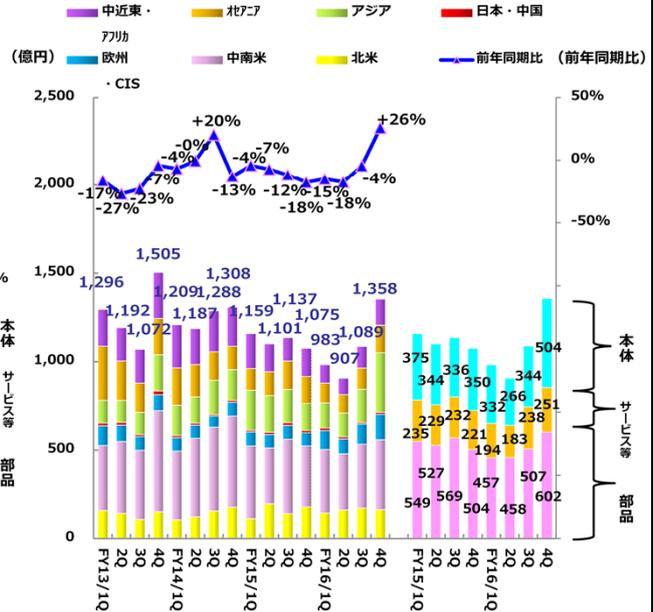
<建設・鉱山機械> 鉱山機械の売上高の見通し

- ・2016年度の売上高は、主に円高の影響で前年比▲3%減の4,336億円。
- ・2017年度は、インドネシアなどでの需要増加の影響と部品売上の増加により、前年比+10%増の4,756億円の見通し。

鉱山機械 年度別売上高 (部品・サービス含む)



鉱山機械 四半期別売上高 (部品・サービス含む)

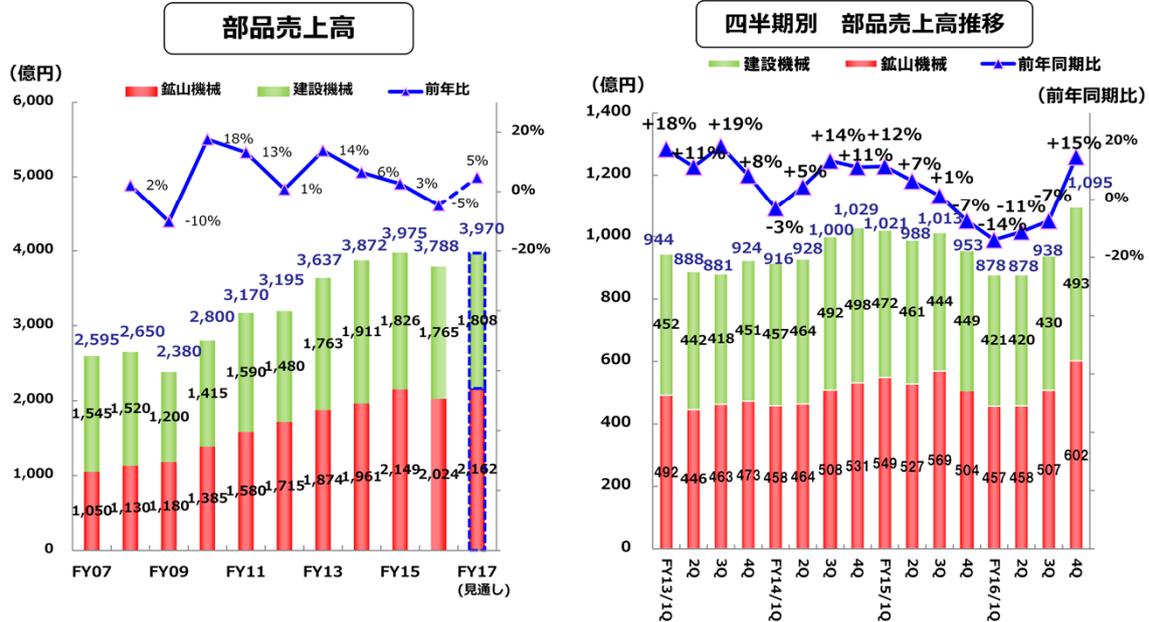


□2016年度の鉱山機械の売上高は、前年比▲3%減の4,336億円、為替の影響を除くと+7%の増加となりました。本体・部品・サービスともに為替影響を除き、売り上げが増加しました。

□2017年度は、インドネシアなどでの需要増加の影響と部品売上の増加により、前年比+10%増の4,756億円となる見通しです。

<建設・鉱山機械> 部品の売上高

- ・ 2016年度の部品売上高は、前年比▲5%。
- ・ 2017年度の売上高は、前年比+5%増の3,970億円。

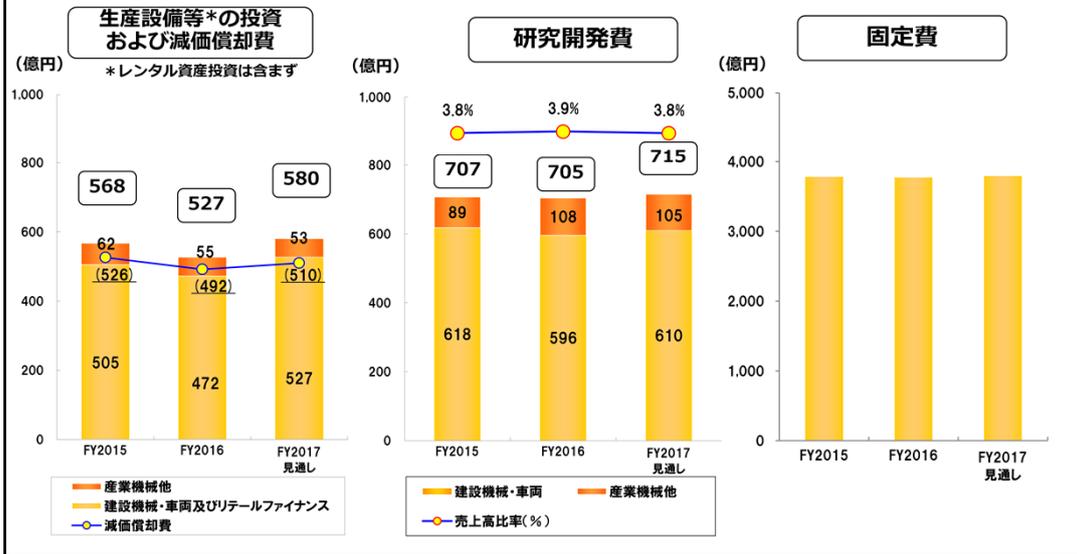


□ 2016年度の部品の売上高は、前年比▲5%減少の3,788億円、為替の影響を除くと+4%増となりました。内訳は一般建機が5%増、鉱山機械は+4%増です。

□ 2017年度は、前年比+5%増加の3,970億円の見通しです。

設備投資・減価償却費・研究開発費・固定費の見通し

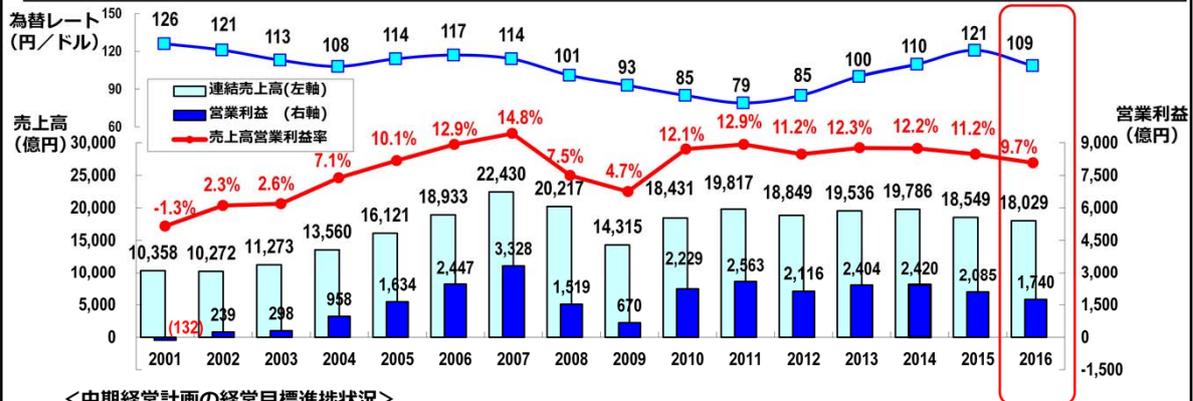
- ・設備投資は、IoTを活用した生産改革や国内営業拠点の統合、働き方改革を見据えた情報システムなどへの投資を推進。
- ・研究開発費は、排出ガス規制対応や分野別・地域別商品開発の他、イノベーションによる次世代商品開発に引き続き重点投資。
- ・固定費は、将来の成長のための投資の原資を確保する一方で、構造改革を継続し、全体としては引き続き抑制。



- レンタル資産投資を除く生産設備等の投資では、IoTを活用した生産改革や国内営業拠点の統合、また働き方改革も見据えた情報システムなどへの投資を推進していく予定です。
- 研究開発費は、排出ガス規制対応や分野別・地域別商品開発の他、イノベーションによる次世代商品開発に引き続き重点投資していきます。
- 固定費は、将来の成長のための投資の原資を確保する一方で、構造改革を継続し、全体としては引き続き抑制していきます。

年間業績推移および中期経営計画の経営目標進捗状況

・中期経営計画の経営目標に対し、1年目の実績としては、全体のROE及びリテールファイナンス事業のROA以外はほぼ達成している。



<中期経営計画の経営目標進捗状況>

	経営目標	FY2016 (中計初年度)	
		指標	実績
成長性	・ 業界水準を超える成長率を目指す。	売上高成長率	▲2.8%
収益性	・ 業界トップレベルの営業利益率を目指す。	営業利益率	9.7%
効率性	・ ROEは10%レベルを目指す。	ROE	7.3%
株主還元	・ 成長への投資を主体としながら、株主還元（自社株買いを含む）とのバランスをとる。 ・ 連結配当性向を40%以上とし、60%を超えない限り減配はしない。	連結配当性向	48.2%
健全性	・ 業界トップレベルの財務体質を目指す。	ネットD/Eレシオ	0.18
リテールファイナンス事業	・ ROA 2.0%以上	ROA	0.7%
	・ ネットD/Eレシオを5倍以下	ネットD/Eレシオ	3.65

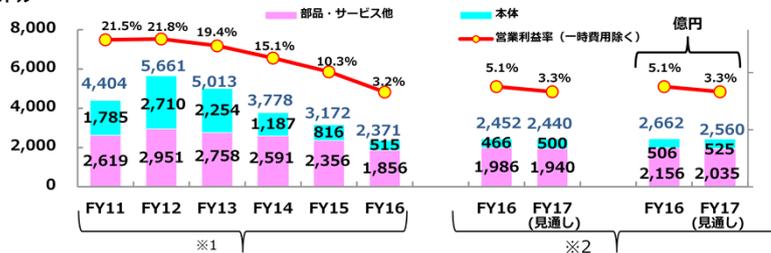
- 次に、中期経営計画の経営目標について1年目の進捗状況をご説明いたします。
- 上のグラフは過去からの業績の推移を示しており、下の表では、中期経営計画の経営目標の進捗状況をまとめております。
- 全体の経営目標のうち、ROEについては、2016年度の公表値6.2%を上回り、7.3%となりました。10%レベルを目指して活動を進めてまいります。なおその他の項目については、ほぼ達成できました。
- リテールファイナンス事業については、ROAは未達となりましたが、ネットD/Eレシオについては3.65倍と、5倍以下を達成しております。

- ・2017年度の売上高は、前年比▲3.8%減の2,560億円の見通し。
- ・営業利益は一時費用を除くベースで90億円。一時費用▲480億円を織り込んだベースでは、▲390億円の営業損失となる見通し。

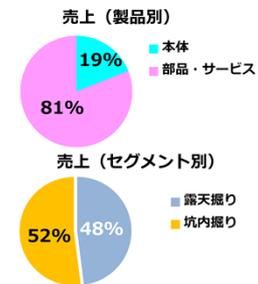
(金額単位：億円)	2016年度		2017年度		前年比	
	実績 (参考)	(¥108.6/USD)	(見通し)	(¥105.0/USD)	増減	増減率
売上高	2,662		2,560		▲102	▲3.8%
本体	506		525		+19	+3.8%
部品・サービス	2,156		2,035		▲121	▲5.6%
営業利益 <一時費用除く>	5.1%	134	3.3%	90	▲44	▲32.8%
一時費用	-		▲480		▲480	-
PPAによる償却費増加額 (暫定値)	-		▲390		▲390	-
スタートアップ費用ほか	-		▲90		▲90	-
営業利益 (▲損失) <一時費用含む>	1.2%	33	▲15.2%	▲390	▲423	-

年度別売上高・営業利益率の推移

百万米ドル



2016年度実績(組替後)



※1: 11月~10月決算 (旧 ジョイ・グローバル社の決算期)
 ※2: 4月~3月決算 (コマツの決算期に組替)

□2017年度の売上高見通しは、前年比▲3.8%減の2,560億円となります

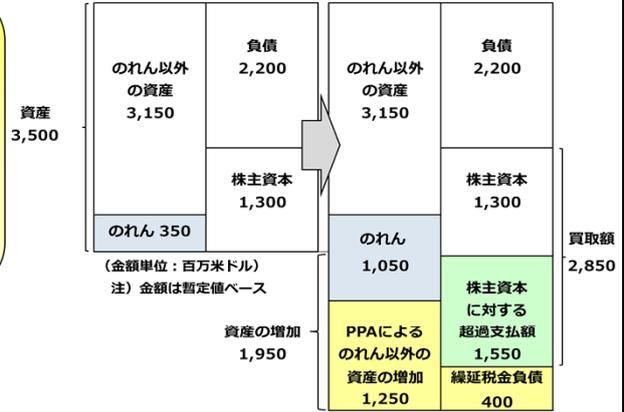
□営業利益は一時費用を除くベースで90億円となり、一時費用▲480億円を織り込んだベースでは、▲390億円の営業損失となる見通しです。

KMC(旧 ジョイ・グローバル社)買収に伴う一時費用について

- ・ KMC買収に伴い、会計上の手続きとして、流動資産と固定資産の再評価、およびそれらに係る償却の再計算が必要となる。(PPA※)
- ・ 具体的な影響額については、2018年3月迄に会計監査を経た上で確定となるが、現時点の想定ではのれんが約10.5億米ドル、PPAによる2017年度の償却費増加額が約390億円と見込んでいる。
- ・ 上記以外に、買収後のスタートアップ費用として約90億円を見込んでいる。
- ・ シナジーおよび統合の中期的な計画を現在策定中であり、このための費用が別途発生する可能性がある。

※ PPAは Purchase Price Allocation (パーチェス・プライス・アロケーション)の略
資産・負債を公正価値評価/配分する手続き

<図1> 買収前のKMCのバランスシート PPAによる資産の増加後 ※



<表1> KMCの買収に係る一時費用

	2017年度(見通し)		内 容
	(百万米ドル)	(億円)	
PPAによる償却費増加額(暫定値)※	370	390	公正価値評価した棚卸資産の売上原価計上、無形固定資産の償却費等
スタートアップ費用ほか	87	90	システム費用、KMCが買収前に計画していた構造改革費用等
合 計	457	480	

<表2> PPAによる償却費増加額(暫定値)の年度別見通し

(金額単位: 百万米ドル)	償却期間	2017年度							合計
		18	19	20	21	22	23~31年度		
① 棚卸資産	5ヵ月	240							240
② 有形固定資産	6年	15	15	15	15	15			90
③ 無形固定資産	14ヵ月~15年	115	60	53	53	53	53/年×9		860
合 計		370	75	68	68	68	53/年×9		1,190

注) 現時点でPPAは未だ完了しておりませんので、数値は全て当社の推定値です。

* 上記「PPAによるのれん以外の資産の増加 1,250百万米ドル」との差額は主に土地(非償却)の増加分

重点活動項目	進捗状況	活動の例
1.イノベーションによる成長戦略	実績	<ul style="list-style-type: none"> ICT建機の機種拡大 スマートコンストラクションの現場導入（国内累計2,800超） スマートコンストラクションの推進体制強化（IoTセンタの開設等） 「MINE expo INTERNATIONAL® 2016」に「Innovative Autonomous Haulage Vehicle*1」のコンセプトを出展（あわせて実機も展示）
	2017年度以降の課題	<ul style="list-style-type: none"> スマートコンストラクションの更なる強化・拡大 ギガフォトンにおけるEUV光源*2・新商品開発
2.既存事業の成長戦略	実績	<ul style="list-style-type: none"> 最新の排出ガス規制に対応した商品の開発・導入 M&Aによる部品の販売増 アジア開発センタ、アジアトレーニング&デモンストレーションセンタの設立 林業機械の機種拡大
	2017年度以降の課題	<ul style="list-style-type: none"> KMC（旧 ジョイグローバル社）との統合推進 碎石・セメント分野の強化継続 レンタル・中古車事業やリテールファイナンス事業も含めたバリューチェーンの更なる強化・拡大
3.土台強化のための構造改革	実績	<ul style="list-style-type: none"> 着実なコスト改善活動の実施 グローバル補給部品オペレーション改革
	2017年度以降の課題	<ul style="list-style-type: none"> 更なるコスト改善活動の推進 グローバルな人材強化、ダイバーシティの推進

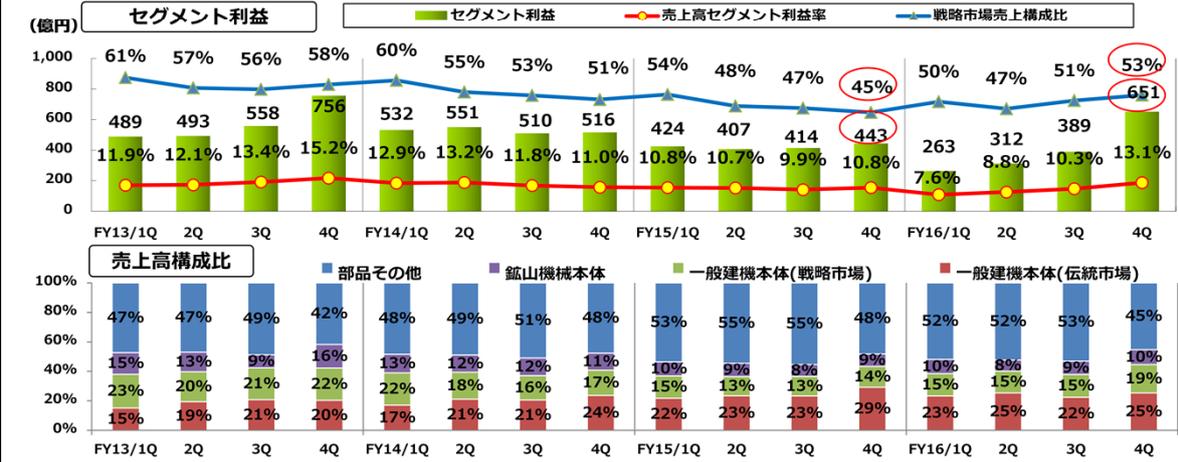
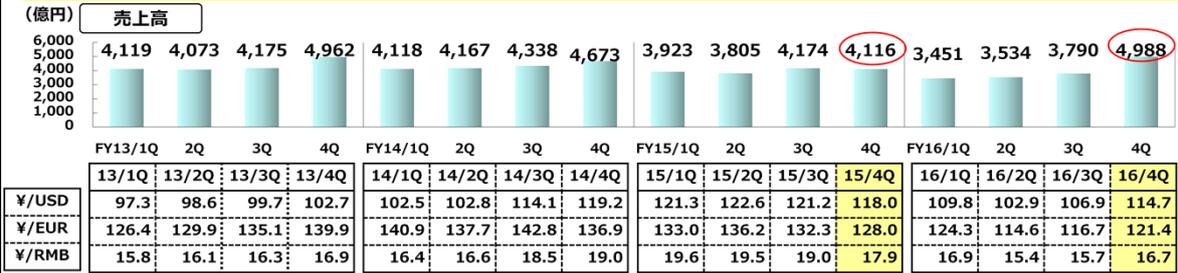
* 1：「Innovative Autonomous Haulage Vehicle」は、運転室を無くした無人専用の超大型ダンプトラックで、将来の市場導入を目指し開発を進めている。

* 2：EUVとはExtreme Ultravioletの略であり、EUV光源は次世代の半導体製造技術のひとつ。

参考資料

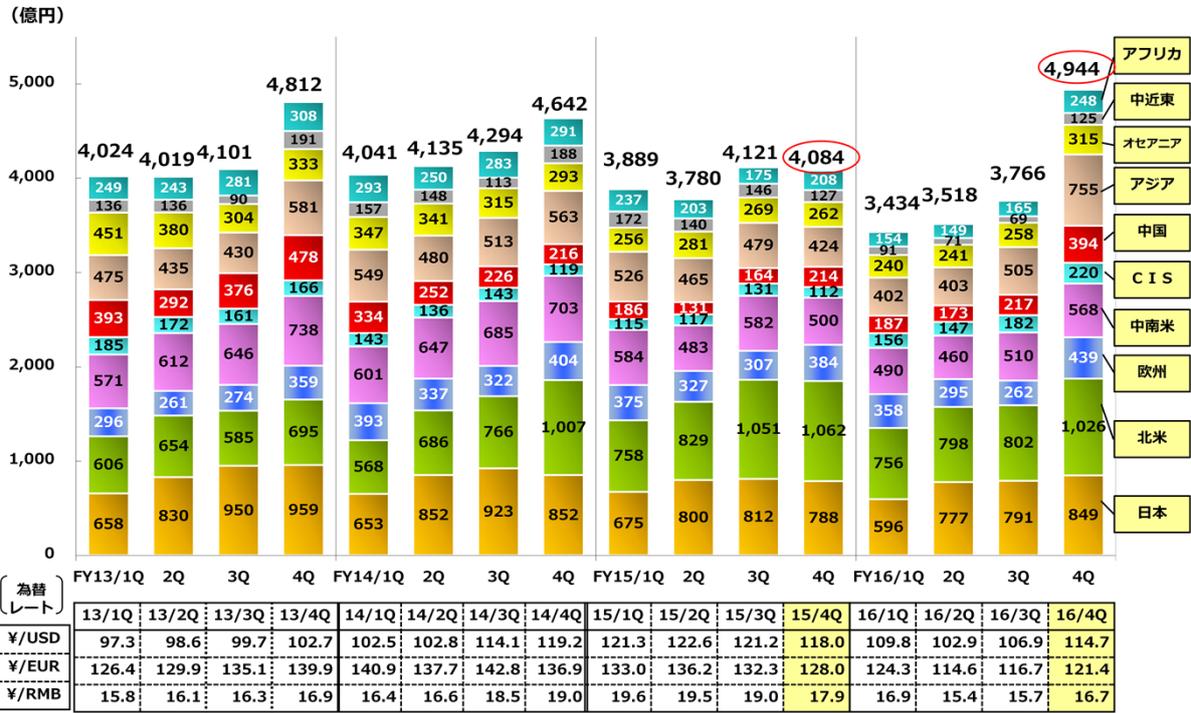
<建設機械・車両> 四半期毎の売上高とセグメント利益の推移

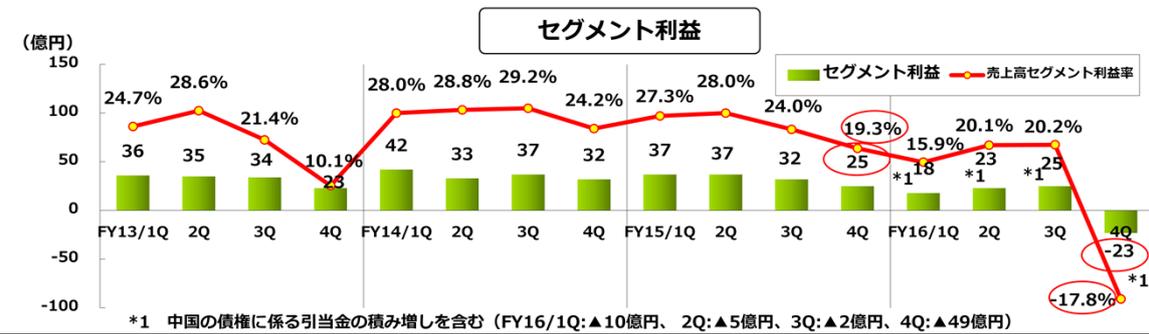
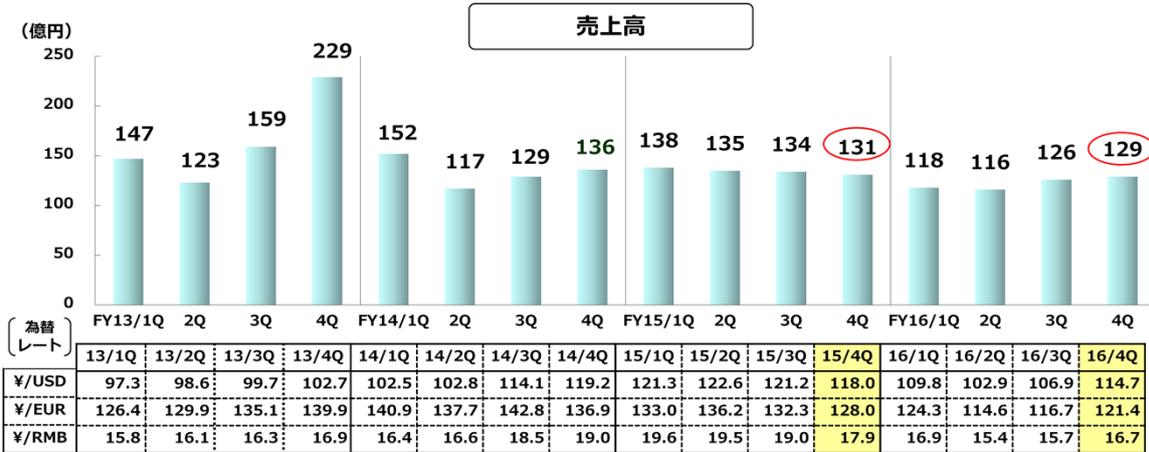
2015年度まで建設機械・車両セグメントに含まれていたリテールファイナンスを、2016年度より事業セグメントとして独立致しました。
2013年度以降も適宜して組替表示しております。



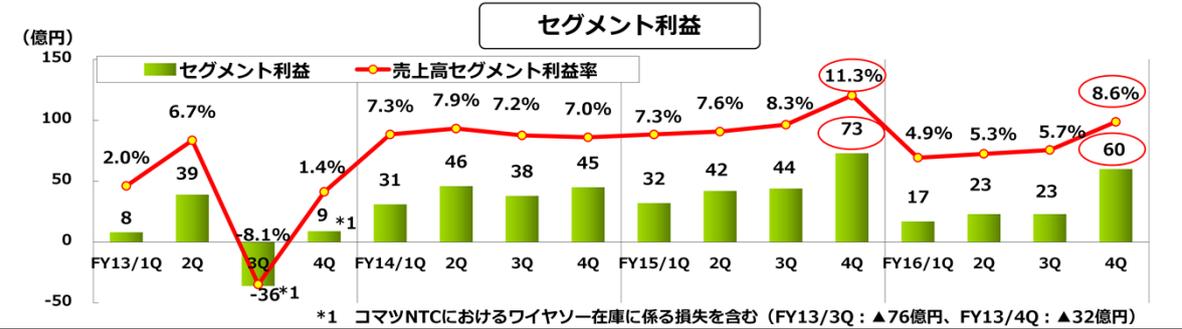
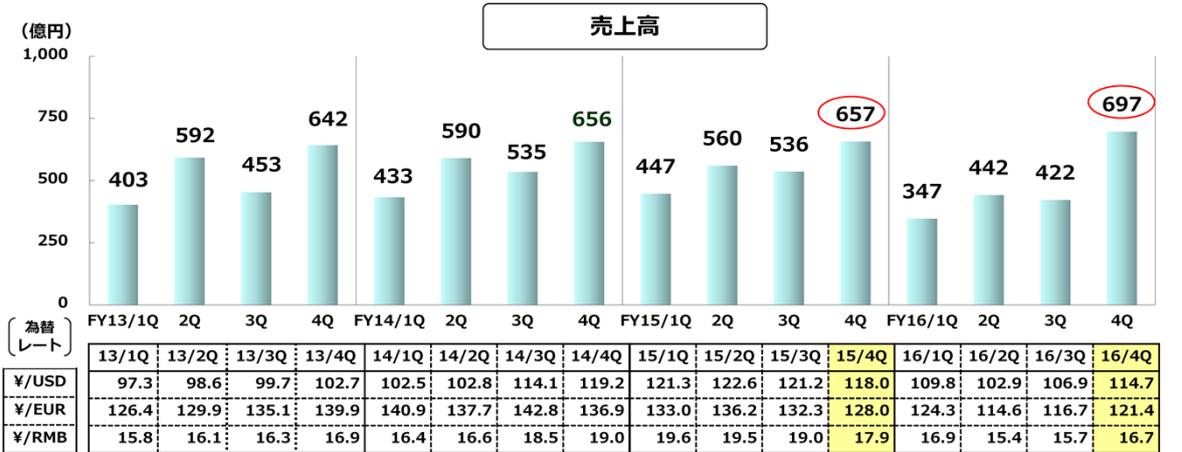
<建設機械・車両> 四半期毎の地域別売上高（外部顧客向け）

2015年度まで建設機械・車両セグメントに含まれていたリテールファイナンスを、2016年度より事業セグメントとして独立致しました。
2013年度以降も適及して組替表示しております。

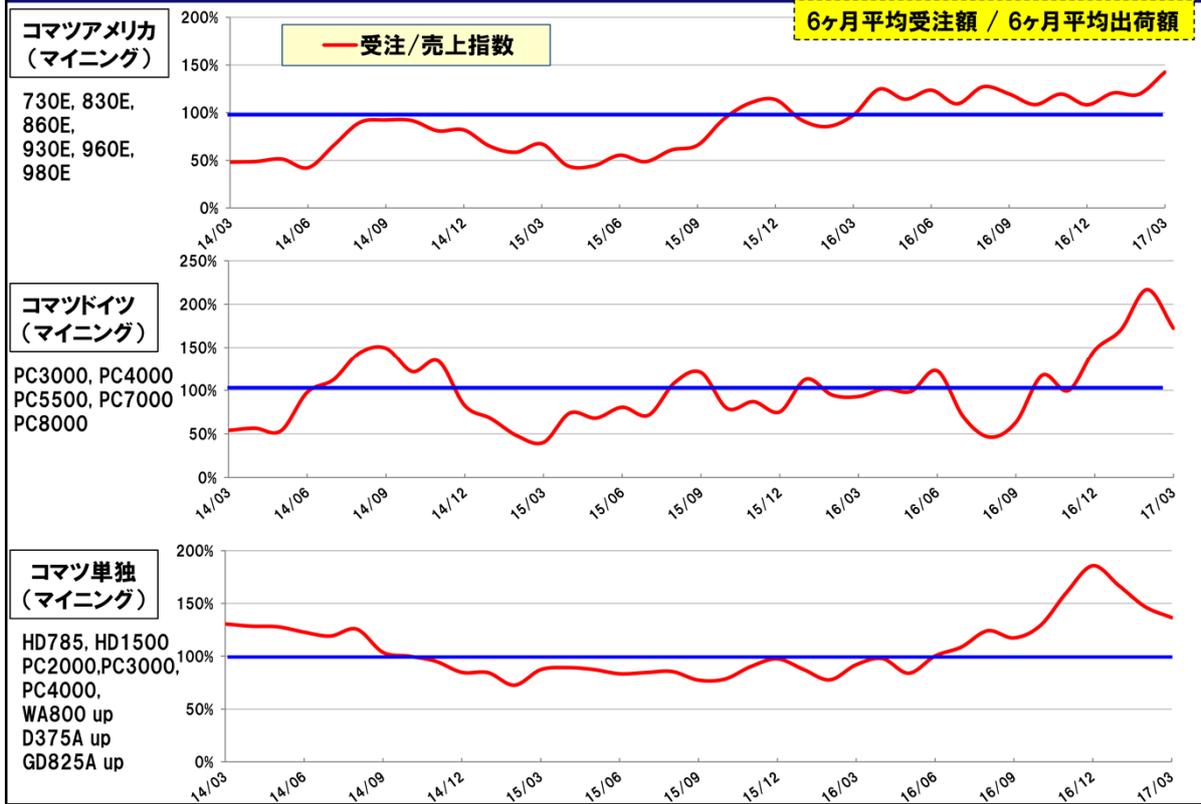




【参考資料】
 <産業機械他> 四半期毎の売上高とセグメント利益の推移

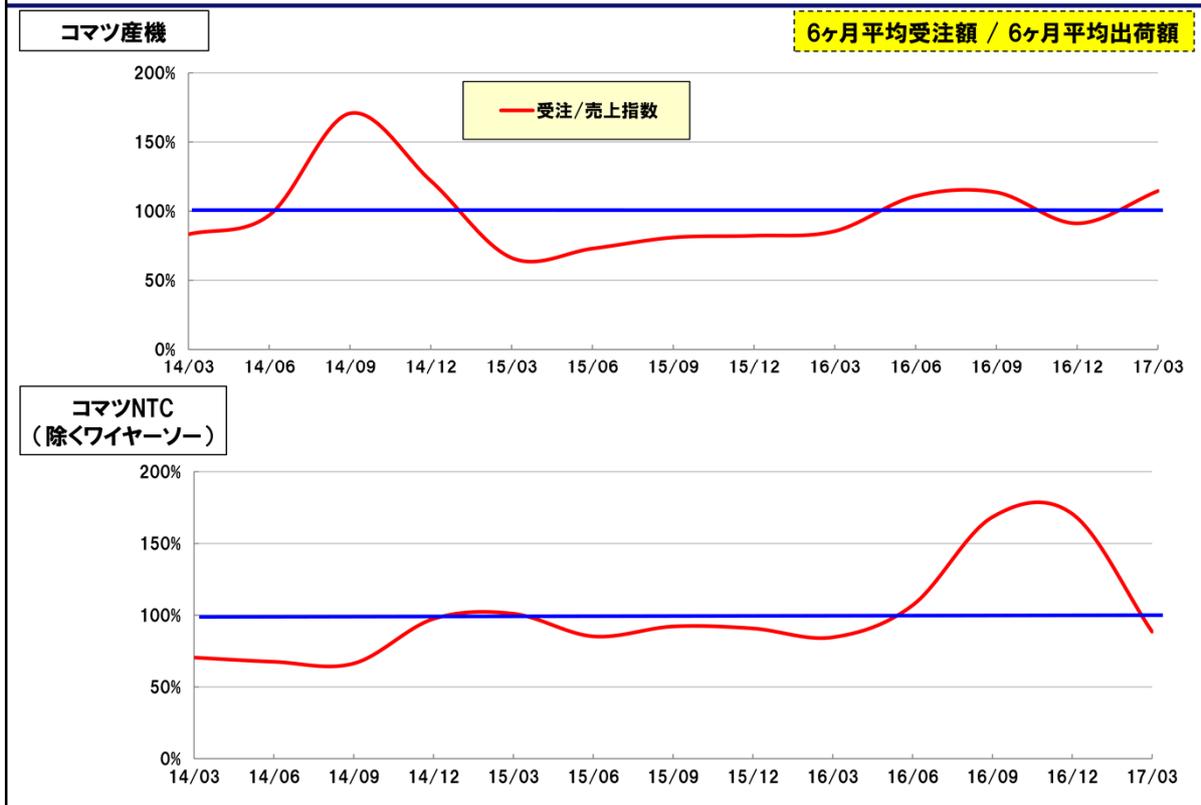


鉱山機械(本体) 受注/売上指数(6ヶ月)



- 鉱山機械本体の、受注と売上の指数の推移を示しております。
- グラフは、直近6ヶ月間の新車の受注額を、同じく6ヶ月間の売上高で割った指数の推移です。

産業機械 受注／売上指数(6ヶ月)



□ 産業機械の、受注と売上の指数の推移を示しています。グラフは、直近6ヶ月間の新車の受注額を、同じく6ヶ月間の売上高で割った指数の推移です。

2016年度第4四半期（1月－3月）の概況

41

【売上・損益】

- ・ 連結売上高は前年同期比+19.0%増収の5,762億円。
- ・ 営業利益は前年同期比+24.4%増益の670億円。売上高営業利益率は+0.5ポイント改善し、11.6%。
- ・ 純利益は前年同期比+33.7%増益の450億円。

金額単位：億円	2016年1-3月 ¥118.0/USD ¥128.0/EUR ¥17.9/RMB	2017年1-3月 ¥114.7/USD ¥121.4/EUR ¥16.7/RMB	前年同期比	
			増減	増減率
連結売上高	4,844	5,762	+918	+19.0%
セグメント利益	550	687	+136	+24.8%
その他の営業収益（▲費用）	▲11	▲16	▲5	-
営業利益	539	670	+131	+24.4%
売上高営業利益率	11.1%	11.6%	+0.5ポイント	-
その他の収益（▲費用）	▲21	▲38	▲16	-
税引前純利益	517	632	+114	+22.2%
純利益*	336	450	+113	+33.7%

* 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する四半期純利益」

2016年度第4四半期（1月－3月）の各セグメント売上高と利益

42

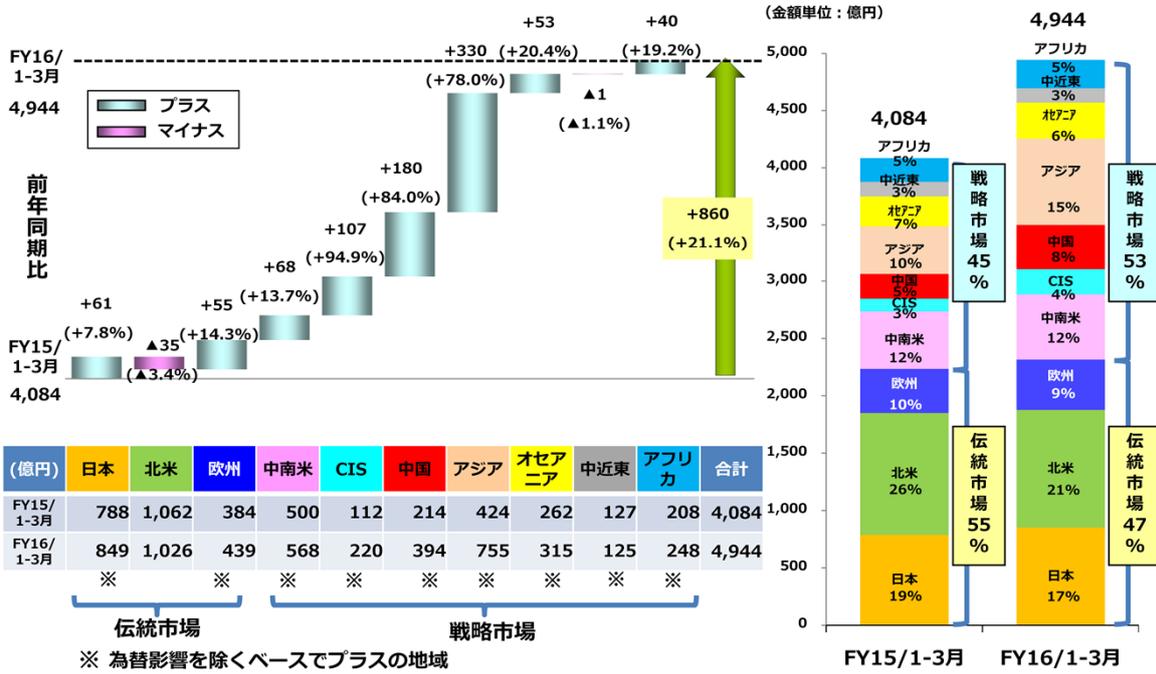
- ・建設機械・車両部門の売上高は+21.2%増収の4,988億円。セグメント利益は+46.9%増益の651億円。セグメント利益率も+2.3ポイント改善し、13.1%。
- ・リテールファイナンス部門の売上高は、▲1.6%減収の129億円。セグメント損失は▲23億円。
- ・産業機械他部門の売上高は、+6.2%増収の697億円。セグメント利益は▲18.6%減益の60億円。

□ : 利益率 () : 外部顧客向け売上高

金額単位：億円	2016年1-3月		2017年1-3月		前年同期比	
					増減	増減率
売上高	4,844		5,762		+918	+19.0%
建設機械・車両	(4,084)	4,116	(4,944)	4,988	(+860)	+871 (+21.1%) +21.2%
リテールファイナンス	(123)	131	(123)	129	(+0)	▲2 (+0.5%) ▲1.6%
産業機械他	(636)	657	(694)	697	(+57)	+40 (+9.1%) +6.2%
消去	▲61		▲53		+7	-
セグメント利益 (▲損失)	11.4%	550	11.9%	687	+136	+24.8%
建設機械・車両	10.8%	443	13.1%	651	+208	+46.9%
リテールファイナンス	19.3%	25	▲17.8%	▲23	▲48	-
産業機械他	11.3%	73	8.6%	60	▲13	▲18.6%
消去または全社	8		0		▲9	-

<建設機械・車両> 2016年度第4四半期（1月－3月）の地域別売上高(外部顧客向け)

- ・外部顧客向け売上高は前年同期比+21.1%増収の4,944億円。
- ・北米・中近東を除く地域で、売上が増加。アジアの増加の影響が大きく、戦略市場の比率が53%に増加





- ・ コマツは、米国ラスベガスで開催された建設機械の展示会「ConExpo2017」において、最新のモデル25機種を出展しました。
- ・ 野外会場では、スマートコンストラクションのデモンストレーションを実施し、多くの来場者の関心を集めました。



- ・米国ジョイ・グローバル社の買収は、関連各国の競争法に当局からの承認され、本年4月5日（米国東部時間）に無事完了しました。
- ・今後は、両社の強みを活かしたシナジーを発揮し、お客様にとって無くてはならないパートナーとなるために、具体的に統合作業を進めていきます。

【業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項】

前述の将来の業績予想に関する予想、計画、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものです。実際の業績は様々な要因の変化により、本資料の予想、計画、見通しとは大きく異なることがありうることをあらかじめご理解ください。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、および国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが考えられます。

コマツ 経営管理部 TEL: 03-5561-2687
FAX: 03-3582-8332
<http://www.komatsu.co.jp/>